

第16回 東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

日 時：令和4年12月7日（水）14：00～15：20

場 所：Zoom（Web会議）

出席者：岩手県立図書館 佐藤 奈津子、木村 玲

宮城県図書館 岡本 真澄、松橋 祐輝、佐藤 節子

仙台市民図書館 榊 裕子、星 博之

福島県立図書館 佐野 有季子

岩手大学図書館 遠山 正宏

福島大学附属図書館 小沼 郁子、門間 泰子、芦原 ひろみ、鈴木 舞香

国立国会図書館 相原 雅樹

防災科学技術研究所自然災害情報室 池田 千春（*）、栗栖 和恵

防災専門図書館（防災科学技術研究所客員研究員） 堀田 弥生

東北大学附属図書館 佐藤 初美、真籠 元子、落合 浩平、影山 啓太（事務局）

凡 例：（*）東北大学附属図書館へ来訪による参加

配付資料：

資料1. 第16回東日本大震災アーカイブワークショップ参加者名簿

資料2. 第15回東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

資料3. 東日本大震災アーカイブワークショップの基本構成員について

資料4. 各機関の活動報告書 ー震災記録の収集を中心にー

1. 開会

資料1に基づき出席者より自己紹介を行った。

2. 前回の議事要旨確認

資料2に基づき、前回第15回の議事要旨の確認について説明があった。

3. 本アーカイブワークショップの基本構成員について

資料3に基づき、事務局より本ワークショップの基本構成員の確認について説明があった。構成員について定めた明確な規定が存在しないことから、今回を含め近年継続して参加している機関を、本ワークショップ基本構成員として認識することについて提案があり、承認された。

4. 各機関からの活動報告

資料4に基づき、前回からの変更点・今年度の活動・特記事項を中心に、各機関より報

告および質疑等が行われた。以下各館の事項は口頭説明の要点記載につき、詳細は資料 4 を参照のこと。

(1) 岩手県立図書館

- ・ 収集資料は昨年から図書 145 冊、雑誌 16 冊、その他（1 枚もの等）151 点増加。
- ・ デジタル化を来年度以降に進めていきたい。
- ・ 視聴覚ブース及び書架を震災、災害、防災関連の学習スペースにリニューアル予定。震災資料の移動や収集範囲の拡大についても計画中。

(2) 宮城県図書館

- ・ 収集資料は昨年度から 447 点増加。
- ・ 「東日本大震災アーカイブ宮城」：コンテンツ数は昨年度から 5,621 件増加。
宮城県の震災伝承施策に関する説明会（2022 年 6 月 6 日）に参加し、広報も実施。
- ・ 未整理だったチラシについて、整理方法等を見直し今年度から本格的に作業実施。
- ・ 「東日本大震災アーカイブ宮城利活用マニュアル」をサイトに掲載。

【質疑等】

- ・ 未整理チラシについての、整理方法の変更点について

(3) 仙台市民図書館

- ・ 収集資料は、図書で 250～260 冊程度増加で、減少傾向。
- ・ 「3.11 震災文庫を読む」コラム（所蔵資料紹介）を継続中。
- ・ 「せんだい電子図書館」でも震災関連図書の積極的購入に努めている。今年度は 110 点ほど収集。貸出も毎月 100 件ほどあり、震災時期（3 月）には増加傾向にあるため、今後も意識して取り組んでいきたい。
- ・ 「仙台防災未来フォーラム 2023」へ参加しブース展示予定。
- ・ 外部施設「せんだい 3.11 メモリアル交流館」へも人員を整えて活動していきたい。

【質疑等】

- ・ 電子書籍の収集について、紙と電子媒体両方あるような資料の収集方法や方針について

(4) 福島県立図書館

- ・ 「震災復興ライブラリー資料一覧（改訂版）」を作成し公開。これまで作成してきた増加資料一覧も含めてまとめたもの。
- ・ 企画展示「東日本大震災から 10+1 年」を開催（2022 年 2 月～4 月）。2021 年出版の記念誌等を中心に展示。
- ・ 出張展示セットに 2 種類リスト追加。こちらのミニ展示も 11 月から開催中。

(5) 岩手大学図書館

- ・収集資料は昨年度から図書 205 冊、雑誌 22 冊、その他資料数点増加。
- ・担当者変更の影響で積極的な収集ができていない。
- ・学内の地域防災研究センターの移転の影響で、センター内資料室所蔵資料の寄贈照会あり。地震に関する県の資料なども含まれ、数が膨大のため対応を検討中。
- ・震災アーカイブ（リポジトリ）のデータのうち、OPAC リンク項目が、今年度のシステムリプレースの影響でリンク切れになっていることが判明し、メンテナンスが必要。

【質疑等】

- ・震災リポジトリのシステムについて

(6) 東北大学附属図書館

- ・収集資料は昨年度から図書 191 冊・雑誌 132 冊増加。オンライン版は 315 点増加。
- ・収集目的ではないものの、関連施設訪問の際に自発的な資料収集を心がけている。
- ・担当部署の学生アルバイトが廃止となり、今後は作業含め職員で担当することとなった。
- ・館内企画展「東日本大震災における図書館の被災状況」開催（2022 年 3 月～5 月）。
- ・2022 年 3 月 16 日の福島県沖地震による水損資料の再収集を実施。本ワークショップ参加機関への寄贈協力依頼・申し出により数十点を補充。改めて御礼申し上げる。
- ・学生インターンシップや中学生職場体験における震災資料の整理作業体験の実施。
- ・「東北大学総合知デジタルアーカイブ」構築の検討を開始。現在の「震災ライブラリーオンライン版」も搭載を計画している。

【質疑等】

- ・「総合知デジタルアーカイブ」について

(7) 福島大学附属図書館

- ・震災関連資料コーナー：平成 23 年「4 月」から公開→「5 月」からに訂正。
- ・附属小学校へ、学校司書の選書により震災関連資料を貸出。生活科授業で活用。
- ・学内部局の支援により、2011 年 3 月以降の新聞原紙製本作業を実施し、今年度完了。
- ・大学としての資料展示コーナーを改修し、10 月から展示も実施中。

【質疑等】

- ・附属小学校への震災関連資料の貸出について

(8) 国立国会図書館

- ・「ひなぎく」検索対象数が約 496 万件から約 470 万件に減少。連携機関及びデータベース数は増加しており、収集コンテンツ数も約 6 万件に増加。
- ・納本制度対象外の震災関係の小冊子・ちらし等約 100 点をデジタル化し 1 月に館内限定で公開。既存公開分と合計で約 360 点をデジタル化し事業を終了。

- ・東北大学災害研と共催の「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を例年同様1月実施予定。チラシ送付による広報への協力をお願いしたい。

【質疑等】

- ・納本制度対象外の震災関係の小冊子・ちらし等の扱いや今後の公開について

(9) 防災科学技術研究所自然災害情報室

- ・連携イベント8件（パネル展示7件+図書館総合展出展および動画公開）。
- ・災害資料アーカイブ機関連携メーリングリストに2機関が新規参加し計32機関となった。

【質疑等】

- ・連携イベントについて、次の活動へのヒントや感想など

(10) 防災専門図書館

- ・Twitterアカウント (@bousai_library) 開設（2022年3月～）。
- ・館内3D-VR映像公開（2022年3月～）。大きな企画展の際にも記録として活用し、公開していく予定。なお2023年は関東大震災100年の企画展を開催予定。
- ・蔵書検索を紹介。検索結果から、各機関での収集の参考となるかもしれない。
- ・岐阜県飛騨地区の公共図書館の研修（講師）で、被災記録の実例として、東北大学図書館の福島県沖地震（2022年3月）の対応記録ページを紹介。

【質疑等】

- ・3D-VRの導入について
- ・Twitterの運用体制

4. その他

- ・次回ワークショップの日程、情報共有等について
事務局より、本ワークショップの次回の日程について、2023年12月頃に開催の見通しである旨説明があった。

あわせて、その他の随時の情報共有・相談等には、本ワークショップ参加機関のメーリングリストを適宜活用いただくようアナウンスがあった。

以上